

平成 25 年度札幌医科大学「地域包括型診療参加臨床実習」外部評価委員会

外部評価委員会からのご意見

- この事業は参加型の臨床実習をさせるために必要な事項をしっかりと積み上げて実施していると思う。
- 医行為中心の実習ではなく、臨床推論力を養う実習が卒前において重要であることを学生に理解させるようにすれば、もう少し履修希望者を増やすことができるのではないかと。学生が何を求めているのかを調査してみるとよいと思う。
- 身体科ばかりの実習ではなく、精神科のようなメンタル面も重要になってくると思われるが、この実習プログラムには、その部分が抜けているように感じる。グローバルな医者を育成する観点からみると、メンタル面も診ることができる医師の育成も必要ではないかと考える。
- 夜間の救急対応実習については、実施日を予め決めておくのは困難であると思うので、学生に過度な負担がかからないよう配慮しながら、臨機応変に呼び出すようなシステムを構築することが必要だと思う。
- 週 1 日計 4 日間の地域実習(サテライト)を効果的に実施するためには、サテライト施設に対し「こういう内容で行いたい」と念入りに打合せを行うことが必要だと思う。そうすれば、充実した実習内容になっていくのではないかと。思う。
- 保健所であれば、食中毒や感染症のシミュレーションなどいくつか準備ができるのではないかと。施設に要望していただければ、もう少し学生にとって充実した内容の実習ができるのではないかと。思う。

以上